

SHANNON LLC | WORDPRESS SPEED

WordPress速度改善

サービス資料

WordPress を、Core Web Vitals が緑になるまで。表示速度・Core Web Vitals・直帰率を、計測
→ 改善 → 検証のサイクルで段階的に改善します。



遅さの原因は単一ではなく、構成・サーバー・コンテンツ・運用の複合です

WordPress サイトの速度でよくある 6 つの状態。単一の対策だけでは改善しきれないことが多くあります。



スコアが赤・黄のまま

PageSpeed Insights のスコアが赤や黄のまま、改善が打ち止めになっている。何が原因かを特定できず、次の一手が決められない。



Core Web Vitals 不合格

Core Web Vitals (LCP / INP / CLS) の指標が合格ラインに届いていない。Search Console から警告が来ている。



プラグインで遅くなる

プラグインを増やすたびに表示速度が落ちている自覚がある。どれが重いのか分からず、消してよいものの判断もつかない。



スマホが遅く直帰率が高い

スマホからのアクセスが遅く、直帰率が高い。表示を待てずに離脱され、集客やコンバージョンの機会を逃してしまっている。



管理画面がもっさり

管理画面・編集画面の動作がもっさりしている。記事やリビジョンの蓄積で DB が肥大化し、日々の更新作業に時間がかかる。



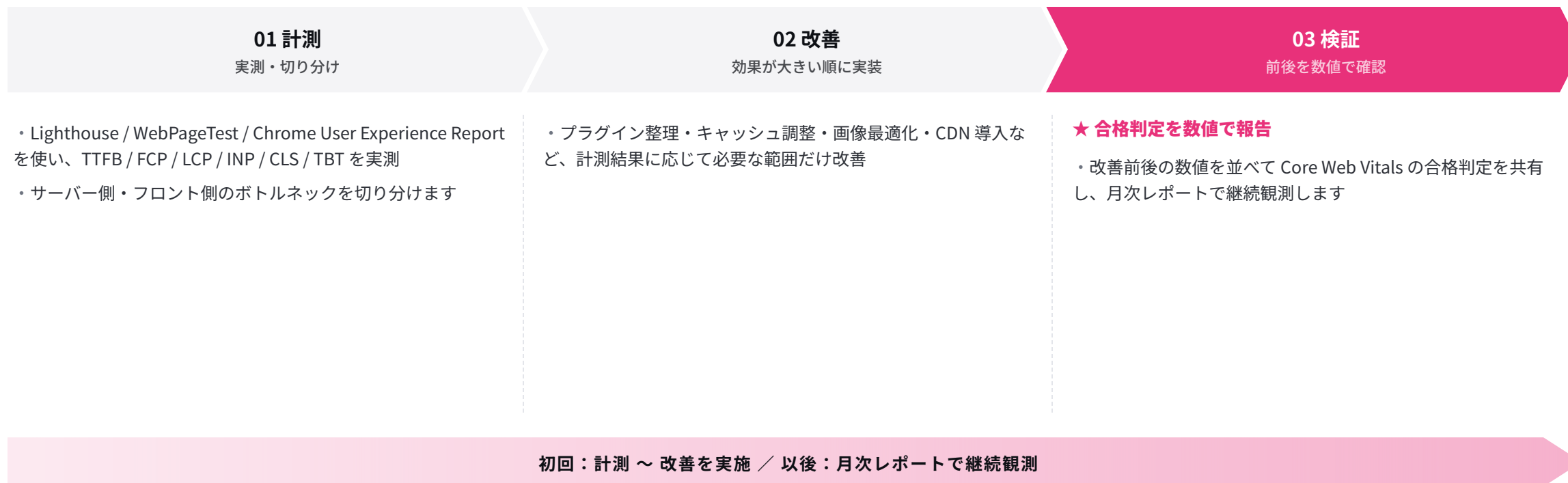
効果が体感できなかった

「速度改善」を謳う業者に依頼したが、効果が体感できなかった。計測を挟まない定型施策では、改善幅の根拠も残らない。

「改善が打ち止め」こそ計測のやり直しどき：原因が特定されないまま定型施策を重ねても効果は頭打ちになります。次頁で SHANNON の進め方をご説明します。

やみくもな手当てはせず、原因を数値で確定してから手を入れます

サービス全体像：「計測 → 改善 → 検証」のサイクルを回し、改善効果を数値で確認しながら進めます。

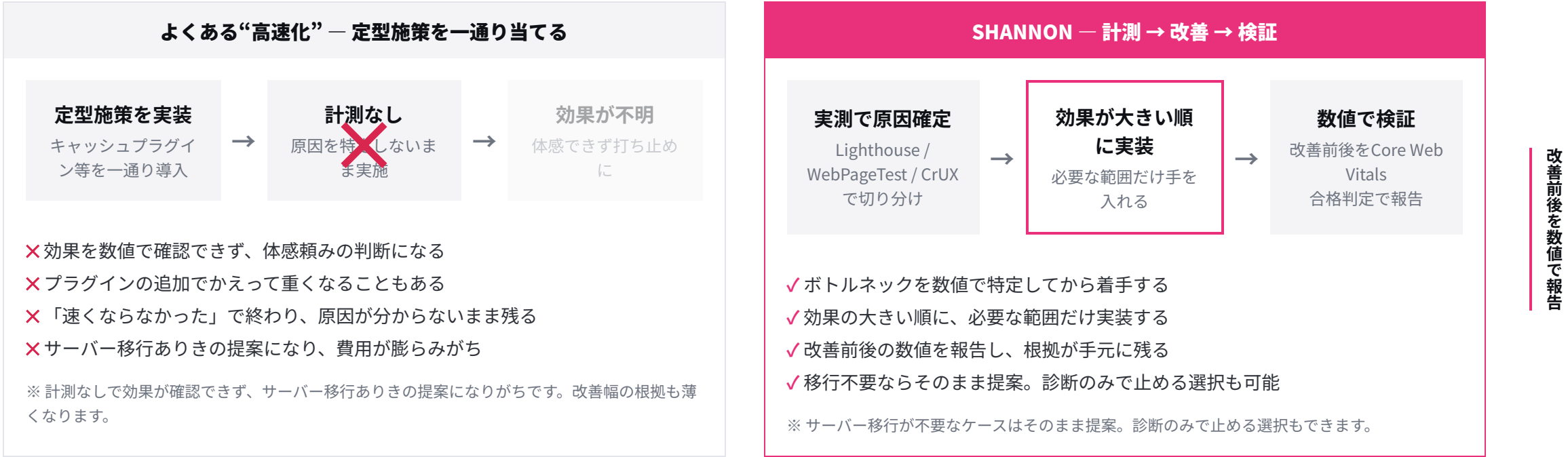


サーバー移行ありきにしません：現状サーバーで届く限界が高ければ、移行せず改善する判断もご提案します。診断結果が「これ以上の改善は費用対効果に合わない」となった場合、無理に実装には進みません。

※ LCP＝主要コンテンツの表示時間 ／ INP＝操作への応答性 ／ CLS＝表示のズレ ／ TTFB＝サーバー初動応答。Core Web Vitals は Google が定めるユーザー体験指標です。

効果が出ない“高速化”との違いは、計測で原因を確定するかどうかです

よくある進め方との対比 — 「効果が体感できなかった」の多くは、計測を挟まないことが原因です。



改善メニュー①

フロント側の“重さ”から削ります

診断・画像・JS / CSS の 3 メニュー。サイトの状態に応じて必要な範囲だけ実施し、効果の薄い施策まで一律に含めることはしません。



速度診断レポート

01 DIAGNOSE

現状の計測値を Lighthouse / WebPageTest で取得し、ボトルネック・改善優先度・想定効果を書面化。診断のみで止める判断もできます。

- ・ Lighthouse / PageSpeed 実測
- ・ WebPageTest による段階分析
- ・ Chrome UX Report の実フィールド値
- ・ Core Web Vitals 合格判定
- ・ 改善優先度マップ（効果 × 難易度）
- ・ 診断レポート PDF の納品



画像・メディア最適化

02 IMAGE

蓄積した画像を WebP / AVIF 一括変換・レスポンシブサイズ生成・遅延読み込みで再構成し、CMS 編集者の運用は変えずにそのまま維持します。

- ・ 既存画像の WebP / AVIF 一括変換
- ・ レスポンシブサイズ生成
- ・ 遅延読み込み（loading="lazy"）
- ・ 背景画像・装飾画像の最適化
- ・ 動画の埋め込み軽量化
- ・ 編集者運用は変えない設計



JavaScript / CSS 最適化

03 JS / CSS

テーマ・プラグインが吐き出す JS / CSS から本当に必要なものだけを残し、レンダリング阻害を解消してフロントの表示コストを下げます。

- ・ 未使用 JS / CSS の検出と削減
- ・ クリティカル CSS の抽出
- ・ JS の defer / async 化
- ・ サードパーティタグの整理
- ・ フォントサブセット化
- ・ レンダリング阻害の解消

※ 画像は既存分を WebP / AVIF へ一括変換します。変換後も CMS 編集者の画像アップロード手順は従来どおりで、運用を変えずに維持します。

改善メニュー②

サーバー・DB 側の遅さも解消します

キャッシュ / CDN ・プラグイン ・DB の 3 メニュー。サーバーキャッシュから DB ・管理画面まで、フロントだけで終わらない改善を行います。



キャッシュ・CDN 設計

04 CACHE / CDN

サーバー・ブラウザのキャッシュと CDN（Cloudflare / CloudFront）を組み合わせることで TTFB を一段下げ、動的サイトとの両立も設計します。

- ・ Cloudflare / CloudFront 設計
- ・ サーバーキャッシュ（Nginx / Redis）
- ・ ブラウザキャッシュ最適化
- ・ 動的コンテンツとの両立
- ・ キャッシュ無効化戦略
- ・ 多言語サイトの設計



プラグイン整理

05 PLUGINS

プラグインは表示速度に影響しやすい要素。使われていない・重い・脆弱性のあるものを棚卸しし、速度と安全の両面から必要最小限の構成に整えます。

- ・ 全プラグインの稼働実態調査
- ・ 重いプラグインの代替提案
- ・ プラグイン間の機能重複の解消
- ・ 脆弱性プラグインの除去
- ・ プラグインで実装した機能の置き換え
- ・ 運用ルールの整備



DB / 管理画面の高速化

06 DB

記事数・コメント数・wp_options の肥大化など DB 側の遅さを直し、管理画面のもっさり感も同時に解消して日々の編集を軽くします。

- ・ wp_options の肥大化対策
- ・ 不要なリビジョン整理
- ・ インデックス追加・クエリ調整
- ・ WP_Query の N+1 解消
- ・ autoload オプション最適化
- ・ 管理画面の体感改善

※ TTFB が長い場合はキャッシュ・CDN 側、操作の重さは DB ・プラグイン側が主因になりやすく、計測結果に応じて優先順位を決めます。

診断のみの単発から、Core Web Vitals の維持運用まで選べます

単発の診断から継続運用まで、案件規模とサイトの状態に応じて3つの形態から選べます。診断結果を見てから進む範囲を決められます。



DIAGNOSE | 速度診断のみ

Lighthouse / WebPageTest 実測

TTFB / FCP / LCP / INP / CLS 実測

Chrome UX Report の実フィールド値

Core Web Vitals 合格判定

サーバー側・フロント側の切り分け

改善優先度マップ（効果 × 難易度）

診断のみで終了する選択肢

レポート PDF 納品

向いているケース：PageSpeed のスコアが赤・黄のまま、改善が打ち止めになっている

RECOMMENDED



OPTIMIZE | 診断 + 改善実装

診断 → 合意 → 実装

効果が大きい順に施策を実装

画像・JS/CSS・キャッシュなど

未使用 JS / CSS の検出と削減

プラグイン整理・DB / 管理画面高速化

CDN（Cloudflare / CloudFront）導入

改善前後の数値で検証

本番反映前のステージング検証

向いているケース：Core Web Vitals（LCP / INP / CLS）が不合格で、Search Console から警告が来ている



CONTINUOUS | 継続的な高速化運用

月次の速度実測と改善

記事追加・プラグイン更新の影響観測

Core Web Vitals 維持運用

PageSpeed スコアの共有

実機レンダリング時間の共有

必要に応じた再調整

月次レポートで継続観測

対応範囲は契約書面で個別合意

向いているケース：プラグインを増やすたびに表示速度が落ちている自覚がある

※ 料金は要件確定後に書面でご提示します。運用フェーズに入った後の速度劣化は実際に起こるため、CONTINUOUS では記事追加・プラグイン更新の影響を月次で観測し、必要に応じて再調整します。

最初の実測から改善報告まで、数値で確認しながら 5 ステップで進めます

診断のみで止める判断もできます。診断結果が「現状で十分」となった場合は、改善実装には進みません。

01



無料相談

サイト URL と現状の課題感を伺います（30 分）。

02



速度診断

Lighthouse / WebPageTest / Chrome UX Report で現状を実測し、改善優先度をレポート化。

03



提案・見積

改善メニューと想定効果、所要期間を書面で。

04



実装

合意した範囲のみ実施。本番反映前にステージングで検証します。

05



検証・レポート

改善前後の数値を並べて、Core Web Vitals の合格判定をご報告。

無料相談 → 診断 → 実装 → 検証（希望に応じて月次の継続運用へ）

数値で語る：改善前後を Lighthouse / Core Web Vitals の数値で比較し、効果を可視化します。

※ 改善幅の目安：共用レンタルで TTFB が長くキャッシュ未設定の WordPress は LCP を半分以下にできるケースが多い一方、チューニング済みのサイトでは限定的です。診断時に想定改善幅をご提示します。

効果の見込み・互換性・運用後の劣化まで、事前にお答えします

導入前によくいただくご質問 — 効果・実装・運用の3分類で整理しました。

	ご質問	回答
効果	どのくらい速くなりますか？	サイト構成によります。キャッシュ未設定なら LCP を半分以下にできるケースが多く、診断時に想定改善幅を提示します。
	PageSpeed のスコアを 90 以上にできますか？	構成・コンテンツ次第です。スコアはあくまで指標で、本質的に重要なのは実フィールド値（CrUX）。ユーザー体感の改善を優先する設計にします。
実装	サーバー移行をせずに改善できますか？	多くの場合、可能です。プラグイン整理・JS/CSS・画像・CDN だけでも大きく改善できるケースが大半。移行が必要なほど低速な場合は「サーバー診断・移管」とあわせて検討します。
	プラグインや独自テーマとの互換性は？	診断時に全プラグインとテーマを確認し、懸念のある施策は事前に対応方針を提示。本番反映前にステージングで全機能を動作確認します。
運用	WordPress 以外の CMS でも頼めますか？	主軸は WordPress ですが、PowerCMS、Movable Type、Next.js + ヘッドレス CMS など他構成でも対応可能です。
	改善後にまた遅くなりませんか？	運用フェーズの劣化は実際に起こります。継続運用プランで追加コンテンツ・プラグイン更新の影響を観測し、必要に応じて再調整します。

まずは診断から：診断のみで止めても構いません。現状の計測値と改善余地を書面でご確認いただけます。

会社概要

社名 シャノン合同会社 (SHANNON LIMITED LIABILITY COMPANY)

代表者 三浦 昌大 (Masahiro Miura)

設立 2026年4月 (決算月：3月)

拠点 東京都豊島区池袋2丁目17-8 / 千葉県柏市若柴178-4 / 北海道札幌市中央区北二条東3丁目2番2号マルタビル8階

資本金 9,900,000円

取引銀行 三菱UFJ銀行 柏支店

事業内容 プロダクト開発・運営 / インフラ構築・運用 / エンジニアリングエージェンシー

パートナー Xserverビジネスパートナー / Microsoft Cloud Partner Program

連絡先 電話 050-1794-9651 / contact@shannon.co.jp / <https://shannon.co.jp>

WordPress の運用は、周辺サービスとあわせてご相談いただけます。セキュリティ強化・死活監視・サーバー移行など、サイト運用に関わる領域を同じ体制で対応します。窓口が一本化でき、施策間の整合も取りやすくなります。

E.O.F

